

立山電化工業(株)

殿

発行日： 2017年11月07日

整理No： 49F-11-002

# 協力工場 不良品連絡書

再発防止のため対策を記入の上、指定回答日までに原本を提出して下さい。

指定回答日： 2017年11月16日

承認	調査	担当

仕様番号	G-110278	不良内容 繋ぎ間巻き数量が10000ヶ必要なのに対して、4800ヶしか巻かれていなかった。
品名	APB-PLTAA3-550E-DLF	
金型番号	P6511	
ロットNo	170920.2H.025	
連絡受理日	2017/11/02	
対象数量	49,500個	

1. 確認内容	返却品の処置 (数量明記)
ご返却頂いた現品リールの数量を改めて計測したところ、下記状態でした。 総数量: 50,791pin / 内周から切れまで: 44,583pin / 切れから外周まで: 6,208pin 当該リールは弊社にて、検査処置を行っているリールでありました。 当時の検査担当者に確認したところ、貴社からリール仕様書を配布頂いていましたが、この仕様内容を把握しておらず、切れ間の最低必要数量を6,000pinと誤認し、当該リールの処置を行っていました。	返却リールの総数量: 51,791pin この内、切れ間数量が10,000pin以下となっていた箇所を減数して、残りの良品分を再出荷致します。 再出荷数量: 44,500pin(切れなし)

2. 発生原因	4. 流出原因
切れ間の最低数量を6,000pinと誤認したまま、検査処置を行っていたことで、リール内の切れ間数量が6,000～10,000pinの部分も良品判断してしまい、異常発生したものです。 類似品であるBB35C-PLT品のリール仕様では切れ間の最低必要数量が6,000pinであり、担当者が当該品の仕様内容と間違えて作業していました。	リール仕様を誤認していたことで、切れ間数量が6,000～10,000pinの状態を異常判定出来ていなかったため、流出してしまいました。また、実際のリール内の数量とリール現品に貼付していた切れ間数量表示の付き合わせがされていなかったため、誤認していたリール仕様をも下回る切れ間数量表示のリールが流出してしまいました。 検査処置後にリール総数量を求める際、減数分の検査前のリール総数量から差し引いて算出しています。このため、当該リールの検査処置時にも切れ間数量をピン数カウンタで計測していましたが、それをリール現品への切れ間数量表示とはしませんでした。 しかし、ピン数カウンタ上では切れ間数量が6,000pin以上を確保されていたため、担当者がこの思い込みのまま、上記手順通りの減数処理をおこなっていたため、リールへの切れ間数量表示が6,000pinをも下回る数量となっていたことを見逃し、流出してしまいました。

3. 発生防止対策	5. 流出防止対策
検査処置時に、思い込みで作業しないようにリール仕様を確認して作業するよう再度教育致します。 また、類似品種を含め、リール仕様内容について周知致します。	検査処置時のピン数カウンタの計測値が、リールへの切れ間数量の表示を満足したものがどうか再度確認するように致します。 また、この内容を手順書内に追記致します。
実施日： 2017年 11月 10日	実施日： 2017年 11月 9日

在庫品仕掛品の確認	回答日： 2017年 11月 16日
在庫品 問題なし	承認 
仕掛品 問題なし	調査 
標準類改訂 (有・無 (フープ製品減数手順書 TSC-0076))	作成 

確認	承認	調査	確認者
対策後 17.10.04-1-D-0059-0067~17.10.10.1.E-000(-0012) の言+50wt (において) 同不具合無いの物 有効性有り半断致(す。			

(株) 鈴木 鈴木

Rev : B

SQM-10010-4